

窓の達人

インタビュー



日本クレジットカウンセリング協会
アドバイザー・カウンセラー
角川洋子氏

「返済の決意」と「生活の立て直し」がカギ

長引く不況で賃金が減り、ローンやクレジットの返済に追われ、借りては返すことを繰り返してふくらむ借金。多数の業者から借金を重ね、身動きがとれなくなる。

「日本クレジットカウンセリング協会」は、こうした多重債務者の救済と生活再建を、公正・中立なカウンセリングをとおして無料でサポートする公益法人。経済産業省と金融庁の所管で、一九八七年から活動を始めた。年間九〇〇〇件の問い合わせがあり、電話は鳴りやむことがない。

角川洋子さんは、協会のアドバイザー・カウンセラー。八年間のキャリアを持つベテランだ。相談者の救済には本人と代理交渉権をもつ弁護士、借り入れ先業者間の交渉が不可欠。角川さんはこれら相互をつなぐパイプ役を担う。多重債務の解決策には、四種類ある。

弁護士や協会を通して交渉・和解し、弁済する「任意整理」、簡易裁判所で和解する「特定調停」、地方裁判所に再生案を提出する「個人再生」、最終選択肢としての「自己破産」。どれを選ぶかは収入、借入れ件数や債務額によるが、協会は相談者と話し合い、適切な方法を見出す。

相談者のほとんどは、借金を重ねたことで口が重く、すぐには実情を切り出さない。「初回の相談では深入りせず、現状を把握しながらも絶対に説教しないことが基本です」。

弁護士と角川さんは、相談者が作成した債務明細に目を通し、残債務額を予測する。債務をどれだけ圧縮できるかは、借入れ時期や利用状況しだい。期間が長いほど、利息制限法の引き直しを適用すれば、残元本は圧縮される。だが、利用状況により減額できないケースもある。角川さんは厳しい表情を崩さない。「いちばん大切なのは、相談者自身が返済への強い決意をもち、生活のあり方をしっかり立て直すことです」。

次は一カ月に必要な生活費の見直しだ。これができるば、毎月の返済額の見直しもつく。低めに見積もる相談者が多い。心機一転、意気込みをみせたい、そんな思いからだろう。でも、返済期間は三年くらいの長丁場が普通。「無理はダメです。食事も睡眠もしつかり。でないと続きます」。角川さんはアドバイザーするライフスタイルや価値基準はそれぞれ違うだけに容易ではない。

初回のカウンセリングを終える頃、相

談者の表情は見違えるように明るくなる。それまでは債務総額を知ることすら怖かった、でも何もかも話した、何とかなりそうだと、安堵感が包む。カウンセリングを重ねるにつれ、身なりが整い、子どもにかまう余裕も出てくる。当初の予想を上回るペースで返済がすすめば、ギクシヤクしていた夫婦関係も改善に向かう。こんな相談者の変化が、なによりうれしいと角川さんは言う。

相談者の三分の一が二〇歳代。若者の相談数は九二年をピークに減りつづけていたが、一昨年頃からは横ばいの状態だ。フリーターが多く、ひとり暮らしをするための準備や携帯電話の使いすぎで、深みにはまるケースが少なくない。男性では、ギャンブルにはまるパターンも相変わらずだ。

家族と来所する相談者には、間髪入れずしゃべり続ける母に、一方の息子は無言というケースがある。カウンセラーを手こずらせるこんなケースに、角川さんは若者が話しやすい雰囲気を作ることにも気を配る。「こうした相談者は、家族にしかかれてばかりで疲れています。ひとつでも良いところを見つけて褒め、立ち直るきっかけを作ってあげる。子育てと同じです」。

ある若者の案件が、交渉の末やっと全件和解した。ホッとすると、同じような境遇の友人を連れてくる。また相談が始まる。でも角川さんは、ひまわりのような笑顔を絶やさない。だからこそ、相談者も心を開放できるのだなと思わせた。

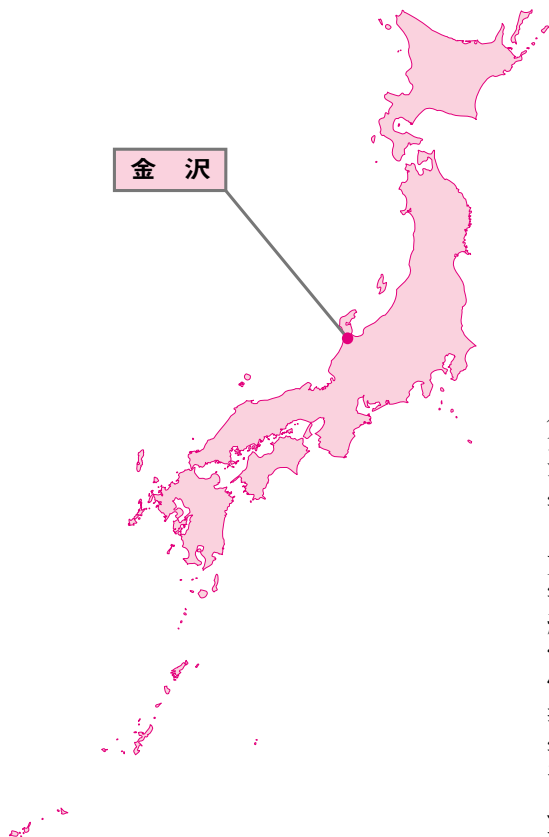
(調査部 渡邊木綿子)

各地の学窓から

地方大学の
教育と就職

奥井めぐみ

(金沢学院大学経営情報学部助教)



金沢には、就職率九九%を超える大学がある。残念ながら私の勤務先ではなく、某工業大学である。この驚異的な数字は、全国ネットで特集番組が放映されたこともあり、金沢のみならず、

全国的に話題となった(と思う)。もちろん、私の勤務先でも、話題となり、先日、同僚の教員とその番組のビデオを拝見した。

その内容はだいたい次のようなもの

である。まず、企業出身者の教員が多く、そのコネもさることながら、多くの教員が新規就職先の開拓にあたり、大学全体として就職支援体制が整っている。基礎教育にも力を入れており、学力が不足している学生には担当の教員が小・中学レベルからの数学などをマンツーマンで教える。卒業時には、そのような学生も大企業への就職を目指すまでになっている。実際、就職内定者の四分の三がいわゆる大企業に決まっているとのこと。

大企業の不祥事が続いている昨今、「大企業に就職させるのがいい」と単純には言えないが、近年の厳しい就職事情を思うと、この高い就職率はうらやましい限りである。一方で、身近にそのような成功例があると元氣付けられるのも事実である。

北陸は全国レベルでも失業率が低い。平成一五年度の労働経済白書より、二〇〇二年の都道府県別失業率をみると、全国平均が五・四%なのに対し、北陸四県では、新潟四・五%、富山三・六%、石川四・二%、福井三・六%である。若年層についてみると一五歳〜二四歳の完全失業率は、全国平均九・九%に対し北陸は七・四%、二五〜三四歳の全国平均が六・四%なのに対し北陸は四・七%であり、いずれも他の地域と比較して全国最低である。本学の学生は北陸地方出身者がほとんどであり、これらの県で失業率が低いことは喜ばしいことではあるが、樂觀視はできない。

三カ月前の新聞記事(※)で、「就職を希望する石川県内の高校卒業者が過去一五年ではじめて増加し、前年同月

比で五・二%増」というものがあつた。これは二月末時点で行われた調査結果に基づいている。調査を行った石川労働局ではこの原因を「大卒でも就職難は同じだと考え、進学しない生徒が増えたからではないか」とみている。この記事は、大学への進学者が減少することを憂慮させただけでなく、学生の就職を考えた時に、大学は何をすべきなのかを改めて考えさせられるきつかけとなった。

たとえ大学で身につけた技能が職場で直接役に立たないとしても、大卒であることが労働者の潜在能力の高さを示すシグナルとなれば採用時に有利となる。そして、従来は大卒で就職した場合には、高卒よりも高い所得が保障されたり、より魅力のある職種に従事できるなどのメリットがあつた。しかし、就職難で大卒にそのようなメリットが無くなれば、若者の大学への進学意欲はそがれるであろう。

最近では就職に備えて大学で資格をとらせようとする傾向も強いが、資格を取得するのであれば、専門学校に通えばよいし、そもそも大学は、資格取得を目的とした場ではない(教員免許を除けば)。では、就職を考えた場合に、大学は学生に対してどのような教育をするべきなのか。折りに触れ、同僚と議論することの多いテーマである。

(※)二〇〇四年三月三日北國新聞朝刊

奥井めぐみ(おくい・めぐみ)

労働経済学専攻。主な論文に「パネルデータによる男女別規模間賃金格差に関する実証分析」『日本労働研究雑誌』二〇〇〇年一二月号など多数。

私のこの一冊

五輪書

宮本武蔵著

渡辺一郎校注

空 一身の切合いに勝ち数人の
戦いに勝つのが武士といふ
ものだ。それには、といっ
て武蔵(1594-1645)は。構
え方、足の踏み方、目のつ
け方などを真さに述べ、相
手の強弱を知って先にしか
けよと懇く。本書が長く
読みつがれてきたのも、創
作の意図が具体的に納得のゆくように書か
れているからに相違ない。新校訂を行ない
詳しい注を付して読み易きに重を置いた。



2-1
岩波文庫

『五輪書』

宮本武蔵著 渡辺一郎校注

岩波文庫(1985年発行)

昨年のNHK大河ドラマ「宮本武蔵」は、新之助の登場もあり、大いに期待していたが、全体として盛り上がり残念だった。しかし、このドラマのおかげで、私自身は幾つか武蔵ゆかりの地を訪ねることができた。

巖流島は、かつて一度渡ったことがあるが、その時に比べて観光用に整備され、往年の野趣はすっかり失われていた。ここで武蔵と小次郎の決闘が、船の着く度に演じられるが、演者も毎日何回もくり返すせいか、相当に迫力があった。

小倉と門司の境に近い手向山には、武蔵の養子で小笠原藩家老であった伊織が建てた大きな碑があり、武蔵の生涯を語り伝えている。また作家村上元三にちなんだ「小次郎の眉涼しければくらめ」の石碑もあり、遥か巖流島を望んでいる。

熊本では霊巖洞を訪ねた。曹洞宗霊巖寺の裏にある洞窟で、高さ一間半、中二間、奥が三間ある。ここで晩年の武蔵は参禅しながら『五輪書』を著わしたと云われる。武蔵西塚は淋しい畑地のはずれにあり、高弟寺尾信行たちの墓に守られるように建っているが極めて質素なものである。

途中で立ち寄った熊本県伝統工芸館の吉丸館長は武蔵の事績に詳しく、約一時間にわたって話を聞くことができた。放浪の剣士たちの生涯はほとんど伝わらないが、武蔵の場合は、最後の五年間を細川家で優遇され、多くの弟子にも恵まれたため、かなりの記録が残されて幸せな晩年だったと云う。

武蔵が最後に精魂を傾けたのが『五輪書』である。これは地水火風空の五巻に分かれる。

地の巻は総論で兵法を修める心がけを説く。水の巻は、彼が生涯をかけて編み出した二天一流の太刀筋。火の巻は、太刀そのものの用法、敵と相対する時の動作、心がまえ。風の巻は、他流と己の兵法の比較と得失を論ずる。空の巻は、前四巻を受けた結論。

五輪書自体通読するのはなかなか面倒であるが、私はこの中で特に二つの文章を引いて感想を語りたい。

水の巻の結びの一句「千日の稽

古を鍛とし、万日の稽古を練とす」は重味がある。剣道のみでなく如何なる道においても「継続は力なり」を端的に言い表した名言である。

空の巻は、武蔵が行きついた最後の心境、「萬里一空」の真髓が語られている。空とは迷いの無い心。迷わず、頼らず、道を求め、道を究める。宮本武蔵六二年の生涯そのものを表わす言葉であった。少年の頃、吉川英治の『宮本武蔵』を感動して読んだものだったが、その後の武蔵を訪ねて、あらためて教えられたことが多い。



阿南惟正

(あなみ・これまさ)

新日本製鐵顧問

Profile

1933年1月生まれ。1956年東大法学部卒業。同年4月八幡製鐵入社。新日本製鐵副社長、その後、太平工業社長、会長を経て、2001年4月から現職。

BOOK新刊ピックアップ



『新・オトナの学校 仕事常識』
日本経済新聞社編
(日本経済新聞社、本体1,200円)

社会人としてのマナーや会社のルールなどというのは、馬鹿を重ねるうちに自然に習得できるものだと思っていた。しかし、これは一般的には甘い考えであるようだ。本書のような図書の出版が企画され、それなりの需要もあるようだからである。メガコンペティションによる労働過重が、会社の先輩が居酒屋で仕事常識を教えてくれるという醇風美俗を駆逐してしまっただけでも、出張でためたマイルを私用に使っても、度を過ぎなければ横領にはならないことを教えてくれ、小心者の長年の胸の支えをおりさせてくれた本書の功績は大きい。



『男性の育児休業—社員のニーズ、会社のメリット』
東京大学教授／佐藤 博樹
東京大学助教授／武石恵美子 著
(中央公論新社、本体740円)

少子化の進行は、政府の政策でも押し止めようもない。園歌風に言えば、周囲に高齢独身者が佃煮にするほどあふれ、逆に、3人の子福者（もう死語であろうか）は金の草鞋で捜してもなかなかみつからない。核家族化と近隣共同体の崩壊は、育児にかける周囲の目と手を減らしている。本書も示唆するように、周囲の手と目の減少は子供の性格形成にどのような影響を及ぼしているのであろうか。騒がしいだけのテレビ番組やジャンクフードの開発に人生をすり減らすより、育児の方が文字通り数段生産的である。男性が心おきなく育児参加できる社会制度と企業の理解が望まれている。



『古い人類学』
茨城キリスト教大学教授／青柳まちこ編
(世界思想社、本体1,800円)

個々の老いの姿は、それまでの千紫万紅の人生を映すことから、千姿万態である。一国でもそうなら、歴史・風土の異なる海外における姿は、さらに多様であろう。アラブやアポリジニ、イヌイトなどの老人の姿を活写した本書は、どういう老いがあるのか、社会や家族はどう対処しているかを教えてくれる。自律可能な老後を迎えられればよいが、本人の希望とはかかわりなく他人の世話が必要になった高齢者に社会はどう対応したらいいのであろうか、また、当該個人はどう自分で納得したらいいのであろうか。社会も個人も納得のいく老い方は、重要な研究テーマである。

労働図書館／資料センター受け入れ図書

(2004年4月に当機構資料センターが収蔵したおもな図書)

平成14年就業構造基本調査報告／総務省統計局(総務省統計局)
労働経済動向調査報告 平成15年度／厚生労働省大臣官房統計情報部(厚生労働省大臣官房統計情報部)
平成15年労働関係総合調査 労働組合基礎調査報告／厚生労働省大臣官房統計情報部(厚生労働省大臣官房統計情報部)
労働統計要覧 平成15年度／厚生労働省大臣官房統計情報部(国立印刷局・本体価格1,239円)
新設学校卒業就業者の就職状況調査結果／厚生労働省職業安定局労働市場セクター業務室(厚生労働省職業安定局労働市場セクター業務室)
国際労働経済統計年鑑 2002年版／国際労働事務局(日本ILO協会・本体価格23,810円)
高度成長のなかの社会政策／玉井金五・久本憲夫(ミネルヴァ書房・本体価格4,000円)
日本の経営／森一夫(日本経済新聞社・本体価格830円)
近代日本における社会調査の軌跡／川合隆男(恒星社厚生閣・本体価格6,400円)
日本の労働調査 1945～2000年／山本潔(東京大学出版会・本体価格13,000円)
戦時日本の下請工業／植田浩史(ミネルヴァ書房・本体価格5,500円)
かごしま女性解放史／芳即生(高城書房・本体価格2,000円)
資料労働運動史 平成12年／厚生労働省(労務行政研究所・本体価格37,619円)
「雇用を創る」構造改革／島田晴雄(日本経済新聞社・本体価格1,600円)
ジョブ・クリエイション／玄田有史(日本経済新聞社・本体価格3,600円)
従業員持株制度の実証的研究／園田光司(勁草書房・本体価格4,800円)
いまだ人事制度改革なのか／松田憲二(コブ出版・本体価格1,800円)
これからの賃金・退職金・企業年金／二神恭一(中央経済社・本体価格3,000円)
男性の育児休業／佐藤博樹・武石恵美子(中央公論新社・本体価格740円)
女性と労働／吉田恵子・斎藤孝・東條由紀彦・岡山礼子(日本経済評論社・本体価格4,200円)
女性たちの平成不況／樋口美雄・太田清・家計経済研究所(日本経済新聞社・本体価格1,800円)
古い人類学／青柳まちこ(世界思想社・本体価格1,800円)
雇う前／働く前に読む パートタイムQ&A／山下次郎(文芸社・本体価格1,000円)
パートタイマー・契約社員等の法律実務(第2版)／石崎信憲(中央経済社・本体価格2,200円)
仕事を学ぶ／田中萬年(実践教育訓練研究協会・本体価格1,429円)
職1500／自由国民社(自由国民社・本体価格1,600円)
就職がこわい／香山リカ(講談社・本体価格1,300円)
昭和年間 法令全書(第17巻5～8)／内閣印刷局(原書房・本体価格各14,175円)
労使関係法解釈総覧／厚生労働省政策統括官(労働法令協会・本体価格6,400円)

新訂わかりやすい労働法／厚生労働省政策統括官(労働法令協会・本体価格2,400円)
日本の労使関係と法／外尾健一(信山社出版・本体価格8,000円)
改正労働基準法の実務知識／高橋壽雄(清文社・本体価格2,600円)
15年度版労災保険の最近における審査請求の傾向と解説／厚生労働省労働基準局労災補償部補償課(厚生労働省労働基準局労災補償部・本体価格2,381円)
労働基準法解釈総覧／厚生労働省労働基準局(労働調査会・本体価格4,219円)
平成15年度版雇用保険の実務手引／厚生労働省職業安定局雇用保険課(労務行政研究所・本体価格4,095円)
社会保障年鑑 2004年版／健康保険組合連合会(東洋経済新報社・本体価格3,400円)
福祉市民社会を創る／加藤春恵子(新曜社・本体価格3,600円)
新しい社会福祉の法と行政(第3版)／宇山勝儀(光生館・本体価格2,400円)
社会福祉の思想と歴史／朴光駿(ミネルヴァ書房・本体価格2,800円)
新しい社会福祉の焦点／宇山勝儀・小林良二(光生館・本体価格2,400円)
社会福祉概論／宇山勝儀・森長秀(光生館・本体価格2,400円)
21世紀の公年金政策／渡部記安(ひつじ書房・本体価格4,600円)
家族のライフスタイルを問う／神原文子(勁草書房・本体価格2,400円)
平成16年度版中小企業施策総覧／中小企業庁(中小企業総合情報機構・本体価格1,429円)
現代経営戦略の潮流と課題／林 一・高橋宏幸(中央大学出版部・本体価格3,500円)
海外進出企業総覧 2004(国別編)／東洋経済新報社(東洋経済新報社・本体価格19,000円)
組織と戦略／榎泰吉・高橋正泰(文眞堂・本体価格2,800円)
「日本式M&A」成功の法則／山野彰英(ダイヤモンド社・本体価格1,600円)
2004年版韓国企業年鑑／金時文・蔡載雄・阿部信行他(東洋経済日報社・本体価格38,000円)
経営者のための事業再編ガイドブック／中央青山監査法人(中央経済社・本体価格2,000円)
SOHO起業家として生きる／ぶぎん地域経済研究所(海文堂・本体価格1,400円)
よくわかる標本調査法／厚生統計協会(厚生統計協会・本体価格1,905円)
東南アジアのNGOとジェンダー／田村慶子・織田由紀子(明石書店・本体価格3,000円)
平成16年版国土交通白書／国土交通省(ぎょうせい・本体価格2,800円)
21世紀アメリカの社会問題／熊谷文枝(勁草書房・本体価格3,000円)
バーンズ・ルネッサンスへの招待／富永健一・徳安彰(勁草書房・本体価格4,000円)
社会学的フィールドワーク／好井裕明・三浦耕吉郎(世界思想社・本体価格1,900円)